

グループホーム「ポランの家」通信

2009. 7. 13 NO25

余市町大川町8丁目11番地 TEL 0135-22-1577 発行責任者 橋本武雄

▼朝5時、8ヶ月ぶりに深い森の沢に入る。26センチ28センチの岩魚^{いわな}を4匹程釣った。十分満足。

▼岩魚の塩焼きをほおばり、骨酒^{こつさけ}を飲みながら少年時代を古平で過ごした「極北の詩人」吉田一穂^{よしだいつ穂}の「魚歌」を想う。
(この魚歌の詩碑は古平厳島神社境内にあります)

鳥^{とり}跡^{あと}の海^{うみ}へに うちあげられし木^きを拾^{ひろ}い さかなを焼^やきててにこり酒^{さけ}
鳥跡^{とりあと} 汀^{てい} 拾^{ひろ}流^{なが}木^き 焼^や魚^い介^{けい}

ひとりしくめば夕波^{ゆふなみ}の 声^{こゑ}もおどろに波^{なみ}さわぐ ほこらにひびく波^{なみ}の音^ね
勺^{すく}濁^{にご}酒^{さけ} 濤^う聲^{こゑ}騒^{さわ} 波^{なみ} 蝕^く洞^{どう}

(この漢詩の読み方は、一穂が口述し古平の一穂研究家、水見悠々子氏が記録したものです。古平町教育委員会資料より)

▼私の好きな撫子^{なでこ}の花も咲き夏らしくなって参りましたが、皆様にはお変わりなくお過ごしのことと存じます。

▼五穀豊穰を願う余市神社祭も終わり、我らの豊葦原^{とよあしはら}瑞穂^{みずほ}の国^{くに}に今年も天は豊かな実りを授けてくれる事でしょう。
(豊作祈願の一方、農水省では減反政策をめぐって迷走中です。結論的にはわが国の食糧政策に基軸が無いと言う事でしょう)

▼ところで、皆様「岩魚」の顔をじっくり見たことがありますか？ 山女魚は理知的な顔をしているのですが、岩魚はその身体に似合わず顔が小さく、顔に似合わず眼が大きく、大変愛嬌のある顔をしています。そうあの「ニンニン」という藤子不二雄Aの漫画「忍者ハットリくん」に似ているのです。



お日様の風に洗濯物が喜んでいます

ポランの庭でイチゴ狩

昨年の夏に植えたイチゴが真っ赤に大きな実をつけました。甘味をを出すためにリン酸系の有機肥料を沢山入れました。品種は「健太郎」です。

天気の良い日に皆で庭に出て、真っ赤なイチゴを「美味しいね、甘いね」とロー杯に「ほうばり」しました。私も食べてみますと、芯まで真っ赤、「甘い！」昔食べた本当のイチゴの味がしました。これはまさしく「お天道様の味」です。皆さんに「美味しいね」と喜ばれますと「耕作^{こうさく}者^{しゃ}冥利^{みやうり}」に尽きます。



『この味がいいね』と君が言ったから 七月六日は サラダ記念日

= 俵^{たわら}万智^{まなち} (歌集 サラダ記念日) のパロディーで
『このイチゴ美味しいね』と君が言ったから
七月三日はポランのイチゴ記念日 = 作: TAKEO

娘は津軽海峡を渡ってやって来る

101歳のくお母さん>は玄関の椅子に座って夜遅くまで待っていました。

私を知る来訪日までは、まだ2週間もあります。

60歳を超えた子供が、津軽海峡を渡ってやって来ます。

子供が無事玄関に入ってくるのを待っているのです。

お部屋には布団が二つ並べて敷いてあります。

母子は布団に入り、電気を消して何を話すのでしょうか

葉の花畑に 入日薄れ 見わたす山の端 霞ふかし・・・ (おぼろ月夜)

二階の窓から、西日が入ってくる頃、大きな白い胡蝶蘭こちょうらんの隣にある籐の椅子に腰を掛け、ゆったりとまるで子守唄を歌うように、Yさんがくおぼろ月夜>を歌っていました。

ホーム長室でYさんの歌を聞いていますと、84年の人生の中で彼女はどんな時にこの歌を歌っていたのかなと、思い巡らせるのです。農作業が終わる頃、隣に子供を座らせ夕陽を見ながらこの歌を歌って聞かせたのかもしれませんがね。



「今が旬」うに丼を皆で食べました

今頃毎年、ポランの家では、「今が旬」の「うに丼」を食べます。丼に沢山盛られた「うに」に、わさび醤油をたらし大きく口を開け、いろどり彩りに添えられた「チソ」と一緒に「バクッ」と食べる…これが元祖うに丼の食べ方です。

ああ、旨い！甘い磯の香がする。うに丼が食べれない方はイクラ丼です。秋になったら今度は生の筋子を買ってこよう。そしてそれをほぐした大粒のイクラを醤油漬にしてイクラ丼にしよう。

カラフトにカメムシいなかった

昼食時、開けていた2階の窓から「虫」が飛んで来ました。「キャ〜カメムシじゃない？」とスタッフが素っ頓狂な声を出しています。食事中でしたが、カメムシの話になり、その呼び方が皆さんそれぞれで、面白いのです。「ヘッタレムシ・ヘッコキムシ・ヘップリムシ」などなど。

ところでこのカメムシ、強烈な臭い（集散フェロモン）ばかりでなく稲作農家にとっては大敵なのです。白い稲の花が咲き終わり、実をつけ始めたころその汁を吸って、その結果、「黒変米」となり経済的損失が甚大なものとなります。

さて黙々とご飯を食べていたSさん、ポソッと「カラフトにカメムシいなかったヨ」と言うのです。Sさんは戦前、カラフト（現サハリン）の大泊（現コルサコフ）に住まれていたようです。大泊は豊原（現ユジノ・サハリンスク）の少し南になります。Sさん曰く「カラフトはよかったよ、豊原には遠足に行ったのよ、50度線には広い道路が在ってね・・・」

私（橋本）も50度線の話が出てきた時は驚きました。戦前日本が領有していた南カラフトと、北カラフトの境界線は北緯50度だからです。真岡で起きた電話交換手の悲劇も話してくれました。

カラフトにはカメムシが居なかったということで、私は地図帳を広げ、大泊の緯度を調べてみました。そうすると北緯46度39分。（宗谷岬45度31分）

だとするとそれより緯度の高いフランスのパリ（48度51分）にカメムシは居るか？いました、いました！フランス語でカメムシのことを「ピユネーズ」と言うそうです。緯度が高いのに温かいのはメキシコ湾流が流れ込むからだそうですね。

ご家族の皆様へ（通信）



今日は上手に包丁でジャガイモの皮剥きです

グループホーム「なかじま」の施設長 新岡さんが
三味線演奏のボランティアに来て下さいました。
新岡さんは、「津軽三味線の名手」です。



日常の風景

ポランの家

フォトギャラリー



端午の節句、へこ餅作りです



アップルパイ作り。皆でリンゴの皮を剥き
まずはフィリング作りからです。



今日は余市祭り。
懐かしい「綿あめ」を食べる。